

令和3年度「千代田学」に関する区内大学等の 事業提案制度事業実績報告書

千代田区内の歯科医院における 医療連携の現状と推進プログラムの作成 ～安心・安全・質の高い歯科医療が受けられるように～

研究代表者
日本歯科大学附属病院 総合診療科
小川 智久

研究者
日本歯科大学附属病院 総合診療科
加藤 智崇

日本歯科大学附属病院 総合診療科
前田 祐貴

日本歯科大学附属病院 総合診療科
沼部 恵菜

日本歯科大学附属病院 総合診療科
黒川 理佐子

目次

I	本事業の背景と目的	2 ページ
II	研究方法	3 ページ
III	第1回アンケート	3 ページ
IV	ポスターおよびパンフレット	10 ページ
V	第2回アンケート	13 ページ
VI	第1回・第2回アンケート比較	19 ページ
VII	考察	20 ページ
VIII	謝辞	21 ページ

I、本事業の背景と目的

本事業の目的は、千代田区で開業している歯科医院が医療連携を円滑におこなうことにより、区民の口腔内のみならず全身の健康増進を図ることである。

我々歯科医がおこなう医療連携には、歯科治療における病診連携（開業医と大学病院など）と、医科歯科連携が挙げられる。

病診連携において現在の歯科医療は高度に細分化され、これまでより各分野の専門性が高まっている。

それに伴い患者の治療に対する要求も厳しくなり、開業医のみで患者が満足する治療終結は困難な症例が増えているように思われる。

また、歯科治療にともなう様々な原因による偶発症も報告されるようになったため病診連携が注目されるようになり、紹介状（診療情報提供書）による高次医療機関への患者紹介がなされ、治療後は再度紹介医での定期管理をおこなうという流れができつつある。これは専門的治療を高次医療機関に任せることにより、患者は安心・安全な治療を受けられたと感じ満足度が高まる結果となる。

医科歯科連携においては糖尿病をはじめとする様々な全身疾患が口腔内疾患と関連し、口腔内が健康になることで全身にも良い影響を及ぼすとの報告が数多くなされている。

一方、口腔機能低下による誤嚥性肺炎や、抜歯などの観血的処置により重大な偶発症が起きる糖尿病などの全身疾患も存在する。また近年では医科歯科連携のみならず、薬剤師などの医療職種とのチーム医療の必要性が高まっている。

本事業では、まず千代田区内の歯科医院での医療連携の現状を把握し、それをさらに促すべくシステムの構築や媒体の作成をおこない、一定期間後の再評価により質の高いプログラムを構築することである。

Ⅱ、研究方法

千代田区内に開設されている歯科医院 282 医院に対して医療連携に対するアンケート（第 1 回）を実施した。アンケートは東京都歯科医師会公式ホームページより調べた千代田区内に開設している歯科医院に郵送した。そして回答を郵送していただき回収を行った。アンケート結果を元に医院向け医療連携推進ポスターと患者説明用パンフレットの作成、配布を行った。その後、再度アンケート（第 2 回）を実施した。

なお、本研究は日本歯科大学倫理委員会（NDU-T-2020-55）の承認のもと実施された。

Ⅲ、第 1 回アンケート

【アンケート内容】

歯科病診連携

- ①歯科医療体制について
- ②- 1 大学病院（歯科）への紹介を行っているか
- ②- 2 紹介の頻度
- ③紹介先の診療科の種類
- ④紹介先の対応についての満足度
- ⑤連携先の病院名

医科歯科連携

- ⑥- 1 医科歯科連携を行っているか
- ⑥- 2 医科歯科連携の頻度
- ⑦医科への医療連携をする目的
- ⑧医科紹介先の対応の満足度
- ⑨その他、改善点や希望など

【結果】

千代田区内に開設している歯科医院全 282 医院中 115 医院から回答を得た。(回答率 40.07%)

①貴院の歯科医療体制について教えてください

在籍歯科医師の人数平均が 2.11 人、ユニット台数平均 3.75 台であった。

表1 在籍歯科医師数とユニット台数の平均

在籍歯科医師の人数 (平均)	ユニット台数 (平均)
2.11人	3.75台

②-1 大学病院 (歯科) への紹介について教えてください 現在、紹介をしていますか

115 医院中 113 医院 (97%) が「はい」と答えた。

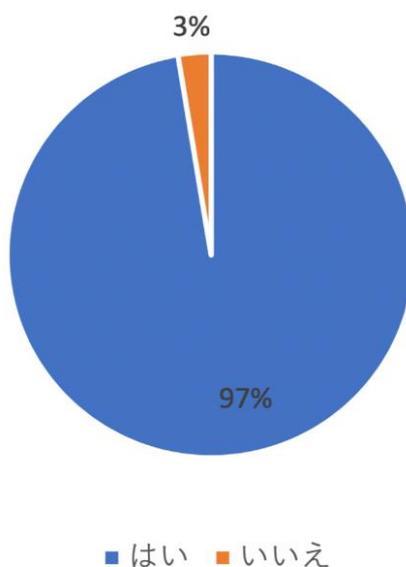


図1 歯科大学病院への紹介の割合

②-2 前の質問で「はい」とお答えの医院に、その頻度も教えてください

「2～3ヶ月に1回」が最大（36医院）で、「月5回以上」が最少（3医院）であった。

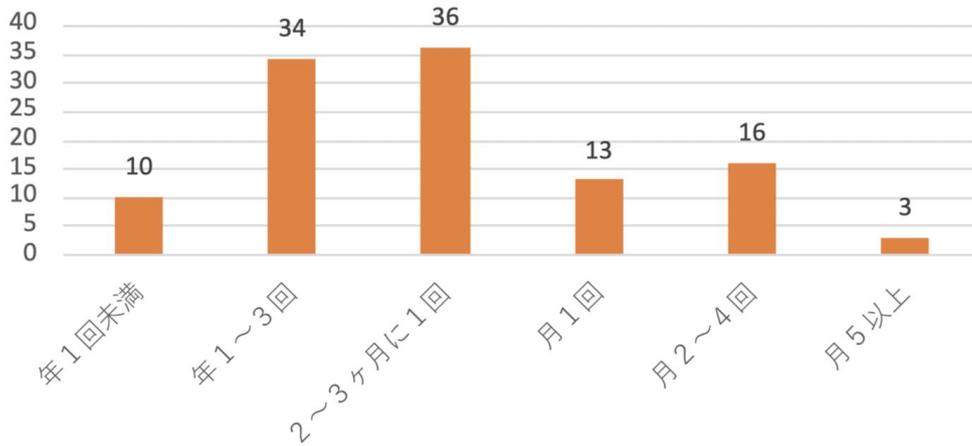


図2 歯科大学病院への紹介の頻度

③紹介先の診療科を教えてください ※複数選択可

紹介先の診療科について他と大いに差をつけて「口腔外科」が最も紹介が多く、次いで「顎関節」、「歯内治療（歯の根の治療）」の順が多かった。

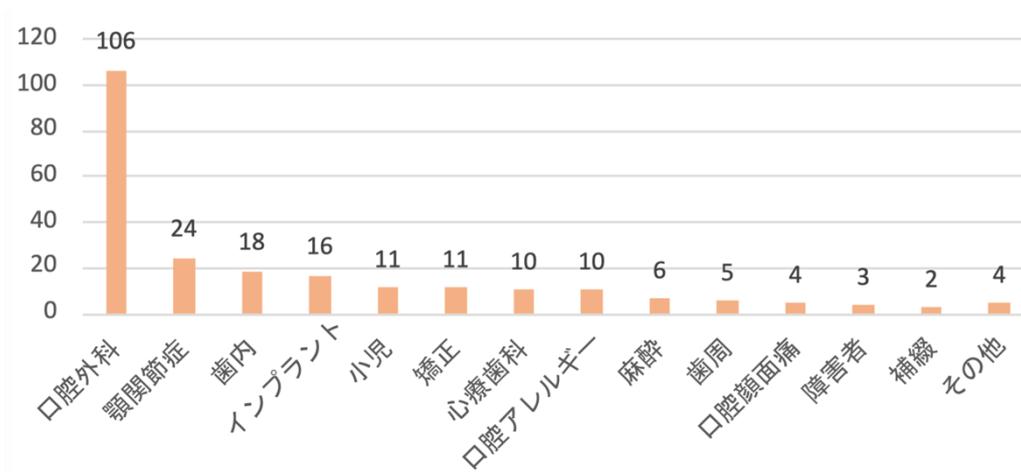


図3 紹介先の診療科の種類

④紹介先の対応について、満足度を5（非常に満足）4（やや満足）3（普通）2（やや不満）1（非常に不満）のうち選んでください

「やや満足」が42医院で一番多い結果となった。

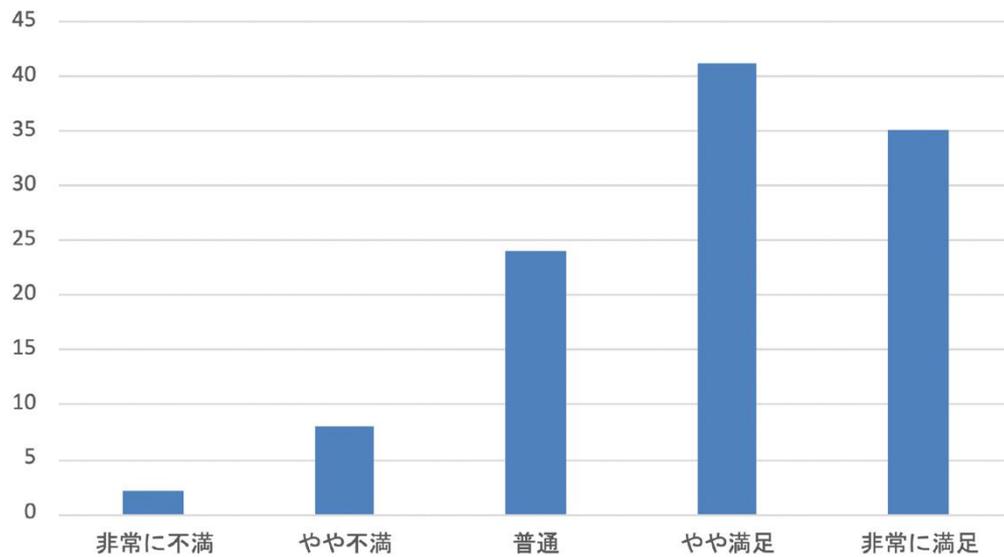


図4 紹介先の診療科の種類

⑤連携先の病院名を教えてください ※複数選択可

東京医科歯科大学 東京歯科大学 日本大学 日本歯科大学 その他 で回答してもらった。

表2 連携先の病院

東京医科歯科大学	東京歯科大学	日本大学	日本歯科大学	その他
40	62	40	53	15

紹介先にて良かったこと、医療連携のメリットを感じたことはなんですか

予約が取りづらく対応が遅いが10件、土日の対応があると良いが6件、対応してもらった歯科医師に差があるが5件、オンラインでのやりとり希望が2件あった

表3 病診連携についての自由記載

予約が取りづらい、対応が遅い	10件
土日の対応があると良い	6件
対応してもらった歯科医師に差がある	5件
オンラインでのやりとり希望	2件

⑥-1 現在、医科歯科連携をされていますか

現在医科歯科連携をしていると回答した歯科医院は76医院（66%）であり、していないと回答した歯科医院は39医院（34%であった。）

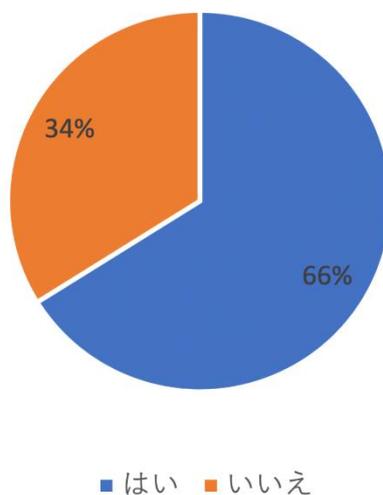


図5 医科歯科連携の割合

⑥-2 前の質問で「はい」とお答えの医院に、その頻度も教えてください

「年に1～3回」が一番多く26医院であった。

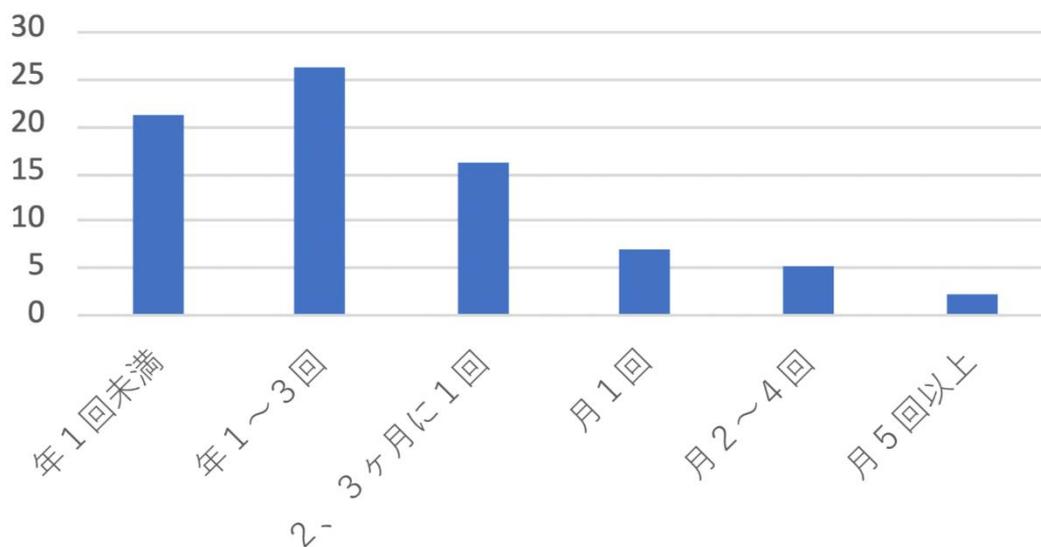


図6 医科歯科連携の頻度

⑦医科に対して医療連携をする目的を教えてください ※複数選択可

医科への医療連携の目的で一番多かったのは「全身状態の照会」、次に多かったのは「医科への診療の依頼」であった。

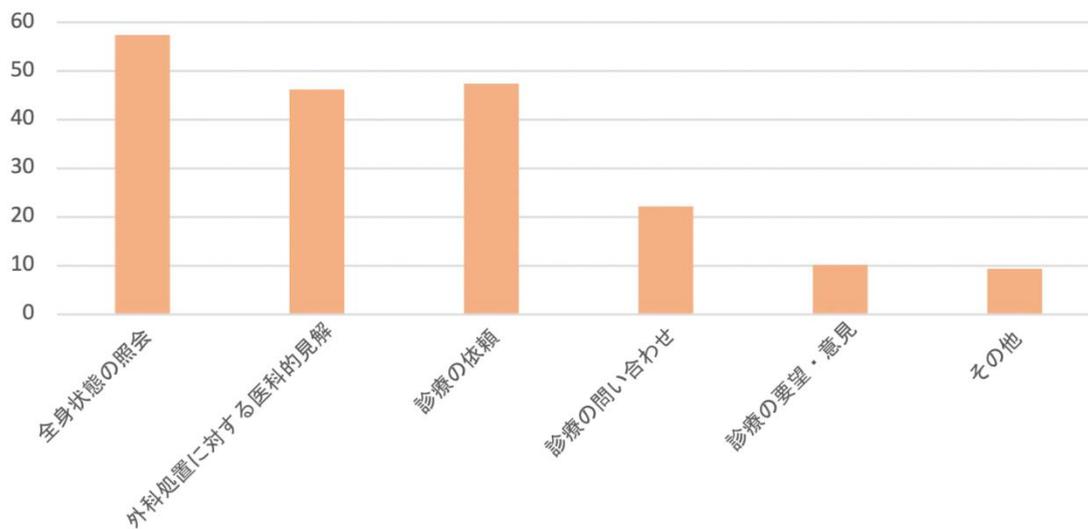


図7 医科歯科連携の目的

⑧紹介先の対応について、満足度を5（非常に満足）4（やや満足）3（普通）2（やや不満）1（非常に不満）のうち選んでください

連携先の医療機関の対応についての満足度は「やや満足」が一番多い結果となった。

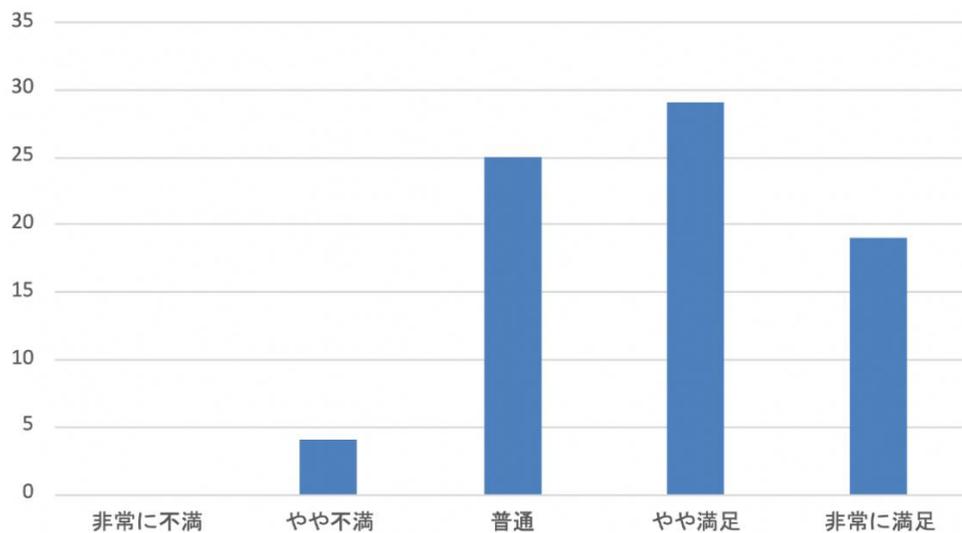


図8 連携先の対応についての満足度

⑨医科に紹介してよかったこと、紹介先に希望する改善点、意見などを教えてください

表4 医科歯科連携についての自由記載

オンラインによるやりとり希望	7件
対診を行う際にもう少し情報が欲しい	3件
予約が取りづらい	2件

以上の結果から入手した現状の問題点を踏まえ、医療連携を促す媒体（ポスター・パンフレット）の作成と配布を行い、その効果についても検討した。

IV、ポスターおよびパンフレット

【医療連携を促す媒体】 2種類①医院向け医療連携のポスター

⇒双方の医療機関でカルテの算定ができるということを強調し、医科歯科連携の啓発を狙った。

医科歯科連携 病診連携

めんどくさいと思いませんか？

項目	目的	対象患者	算定
診療情報提供料（Ⅰ）	他医院への患者紹介	他医療機関での診療が必要	月1回 250点 (紹介ごと)
診療情報提供料（Ⅱ）	セカンドオピニオン	他医療機関で助言を求める	月1回 500点
診療情報提供料（Ⅲ）	医科への返書	医科医療機関から紹介	3ヶ月1回 150点
診療情報連携共有料	医科での診療状況照会	慢性疾患、全身管理が必要	3ヶ月1回 120点



カルテに保存



①

診療情報（検査値、薬剤情報等）
の問い合わせ

診療情報連携共有料（情共）



②

③

診療情報（検査値、薬剤情報等）の提供

< 医師からの情報提供が必要となる処置や加算 >

- ・ 総合医療管理加算
- ・ 睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置作成
- ・ 在宅総合医療管理加算
- ・ 歯科用金属アレルギー患者の診断
- ・ 全身疾患等により、前回より3ヶ月以内のSPT(Ⅰ)算定
- ・ P 処(糖)

総合医療管理加算

* 歯科疾患管理料に加算

- ・ 糖尿病
- ・ 骨吸収抑制剤服用患者
- ・ 感染性心内膜炎のハイリスク患者
- ・ 関節リウマチ
- ・ 血液凝固阻止剤投与中の患者

* これらの疾患は、歯科治療時に十分な配慮や継続的な管理が必要な疾患です。
また、患者の病状は常に変化するので、定期的な診療情報の提供を受けましょう。



診療情報提供依頼書や診療情報提供書(Ⅰ)の
テンプレートは左のQRコードから、または、

図9 医療連携啓発ポスター

②患者向けパンフレット

わかりやすい言葉で医療連携の説明、医療連携を行なった際に患者さん自身が受けるメリットの説明を行った。特に患者自ら自分の病気のことなど初診時の問診の際に言うことで「歯科医院で治療や定期健診を受け、さらに医科との連携をおこなうことにより口腔内だけでなく全身を守ることができる」ことを強調して伝えた。

医療連携とは
内科、外科、歯科などの様々な医療機関が患者様の情報を正確に共有し円滑かつシームレス（つなぎ目のない）な治療を行えるようにすること

医療連携の種類

①病診連携：歯科の内容での他病院との連携
②医科歯科連携：医科と歯科間での連携

①病診連携（歯科⇔歯科連携）
病院とかかりつけ医が機能分担・相互連携をしながら患者様に対して効率的・合理的な医療サービスを提供するもの

現在歯科の中でも専門性が細分化されています。かかりつけ医が病院の専門医に紹介することで専門に特化している機器を使用しより良い医療を受けることができます。

②医科歯科連携
医科と歯科が協働し、患者様の傷病に対し総合的な治療にあたること
全身状態を確認し安心・安全な歯科治療を行うことができます。

日本歯科大学附属病院 製作

医療連携で皆様の口と体を守ります

行きつけの歯科医院の先生から他の病院でより専門的な治療を受けませんかと提案された事がありますか？

また、先生から体の具合や飲んでいる薬の内容を聞かれたけれどちゃんと答えられなかった経験はありますか？

「医療連携」を理解してより最適な治療を受けましょう。

図10 医療連携啓発パンフレット（表面）



図 1 1 医療連携啓発パンフレット（裏面）

患者向けパンフレット52部、こちらの歯科医師向け医療連携のフローチャート5部を回答があった115医院に配布し、約半年後に啓発効果を確認すべく再度アンケート調査を行った。

V、第2回アンケート

【アンケート内容】

事前アンケート後に医療連携啓発媒体を作成し、歯科医院へ送付した。
これらの効果を調べるために第2回アンケートを行った。

歯科病診連携

- ②-1 大学病院（歯科）への紹介を行っているか
- ②-2 紹介の頻度
- ③ 紹介先の診療科の種類
- ④ 紹介先の対応についての満足度

医科歯科連携

- ⑥-1 医科歯科連携を行っているか
- ⑥-2 医科歯科連携の頻度
- ⑦ 医科への医療連携をする目的
- ⑧ 医科紹介先の対応の満足度

第1回と同様の内容

医療連携啓発媒体

- ⑩ パンフレット・チラシの効果があったと思うか
 - ⑪ 患者さんの反応はどうだったか
 - ⑫ 今後どのようなシステムがあると良いか
- その他、改善点や希望などを調査した。

【結果】

②-1 大学病院（歯科）への紹介をされていますか

「はい」と答えた医院は79医院中75医院（95%）であった。

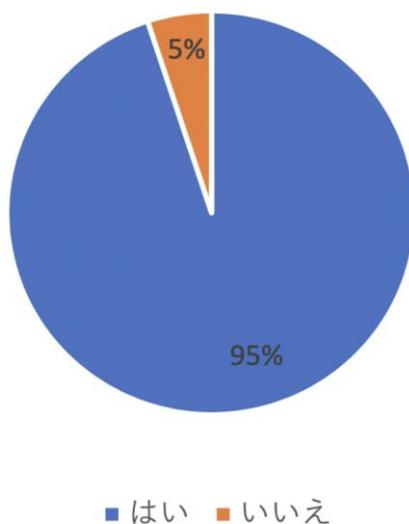


図12 歯科大学病院への紹介の割合

②-2 前の質問で「はい」とお答えの医院に、その頻度も教えてください

「年1～3回」と答えた医院が最も多かった。

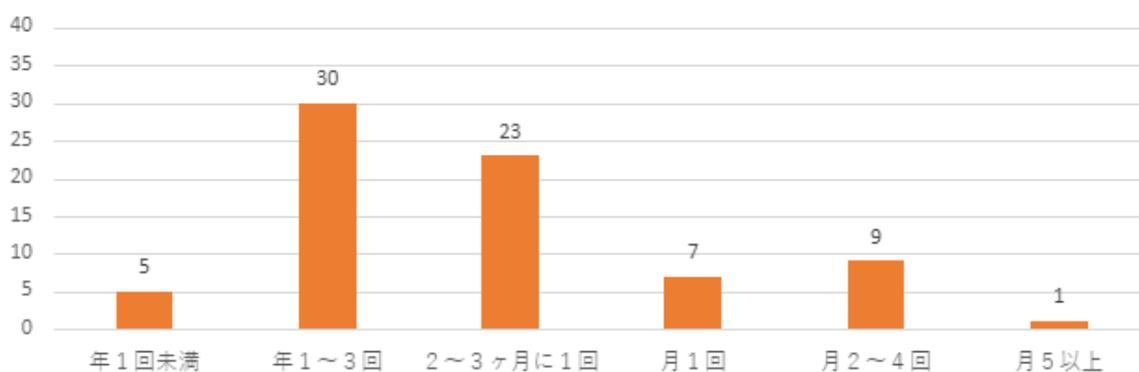


図13 歯科大学病院への紹介の頻度

③紹介先の診療科を教えてください ※複数選択可

一回目のアンケート結果と変わらず口腔外科への紹介が一番多く見られた。

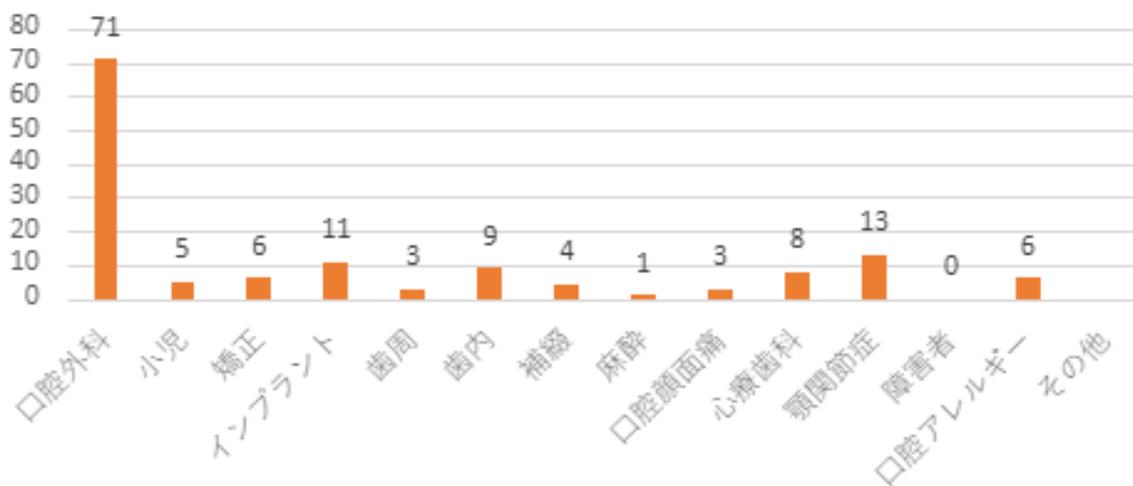


図14 紹介先の診療科の種類

④紹介先の対応について、満足度を5（非常に満足）4（やや満足）3（普通）2（やや不満）1（非常に不満）のうち選んでください

「やや満足」と答えた医院が一番多く、32医院であった。

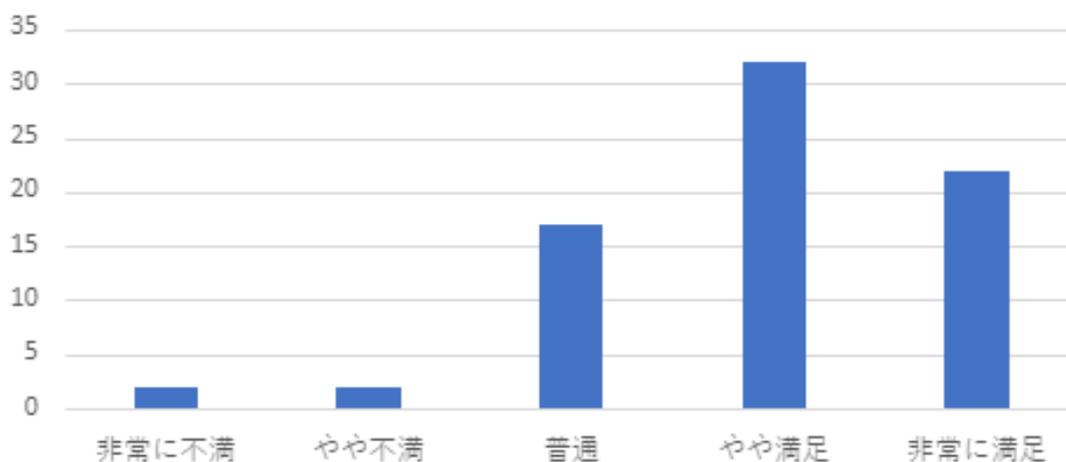


図15 紹介先の診療科の種類

⑥-1 現在、医科歯科連携をされていますか

「はい」と答えた医院が84%（65医院）であった。

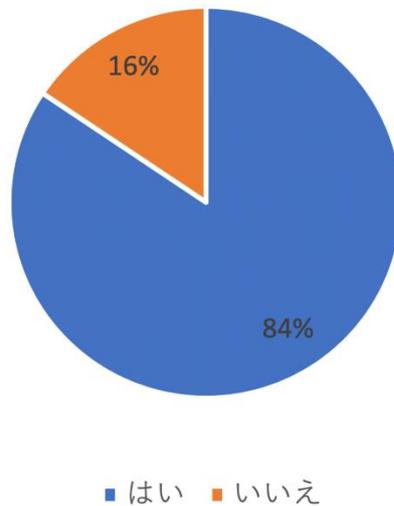


図16 医科歯科連携の割合

⑥-2 前の質問で「はい」とお答えの医院に、その頻度も教えてください

「年1～3回」と答えた医院が一番多かった。

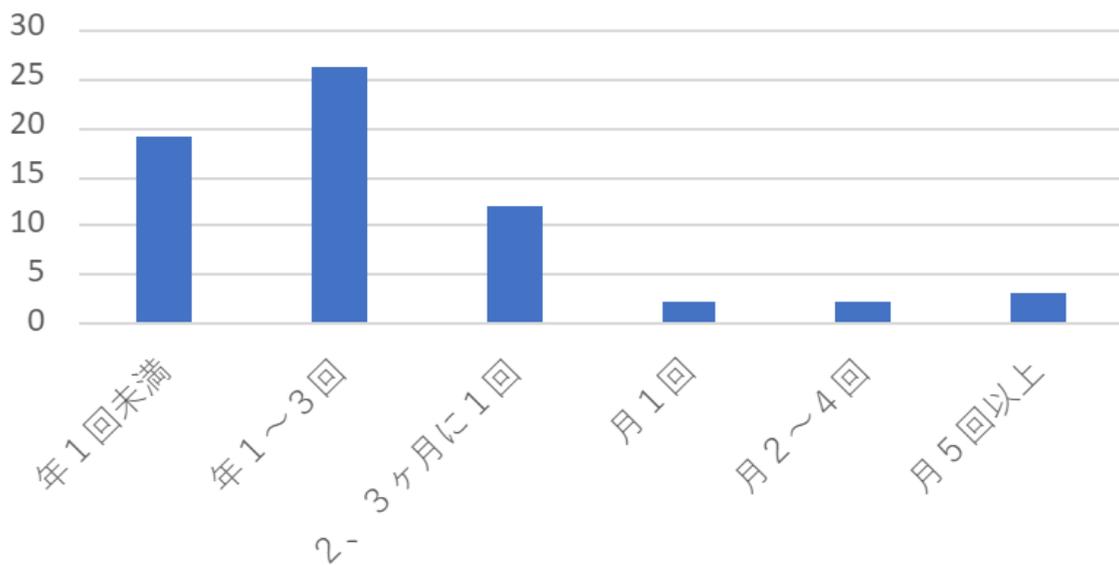


図17 医科歯科連携の頻度

⑦医科への医療連携をする目的を教えてください ※複数選択可

「全身状態の照会」を目的として連携する医院が最も多かった。

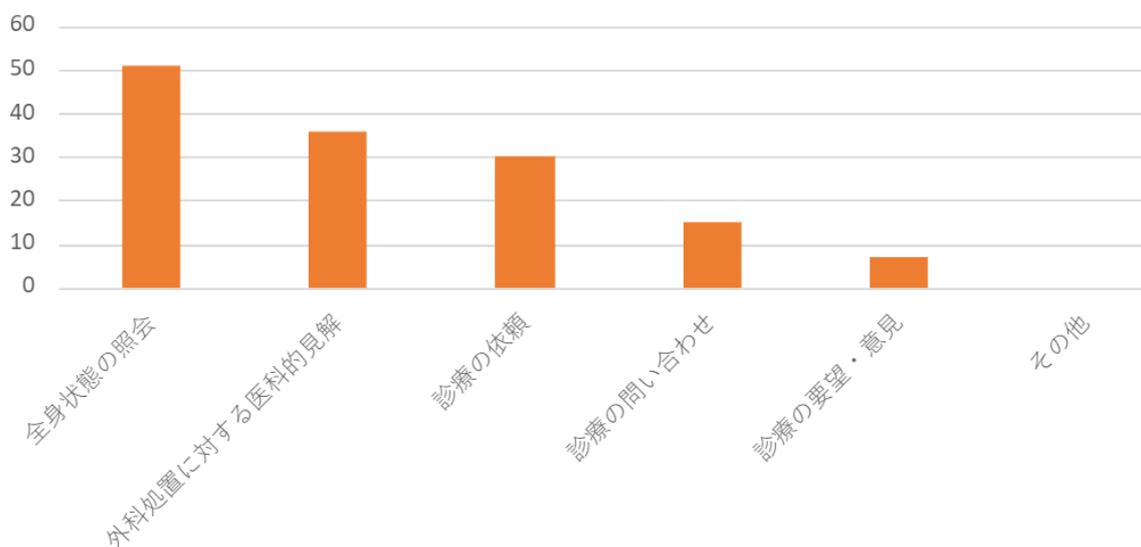


図18 医科歯科連携の目的

⑧紹介先の対応について、満足度を5（非常に満足）4（やや満足）3（普通）2（やや不満）1（非常に不満）のうち選んでください

「普通」が最も多く、次いで「やや満足」、「非常に満足」が多い結果となった。

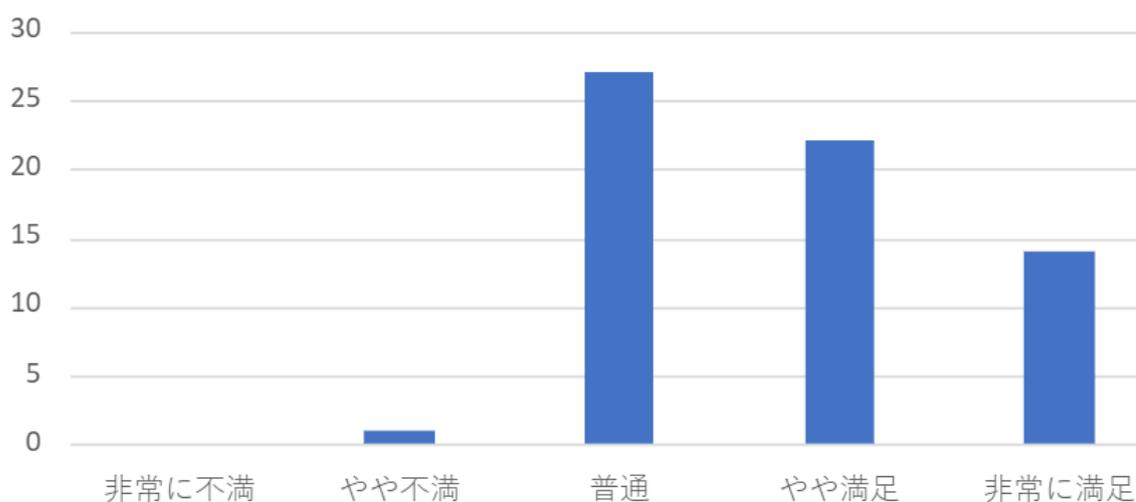


図19 連携先の対応についての満足度

⑩本年8月に送付させて頂いたパンフレット・チラシについて教えてください。医療連携を行うにあたり、パンフレット・チラシの効果があったと思いますか

「患者が頻繁にパンフレットを読んでいた」、「患者からの興味を感じた」などのいい意見もあった一方で、「そもそも活用をしなかった」、「インパクトがない」、「反応を感じることができなかった」などの意見もあった。

表5 媒体の効果

大いにあった	やや効果を感じる	全くない
5	39	21

⑪患者さんの反応はどうでしたか

第1回と同様に「普通」が最も多い結果となった。

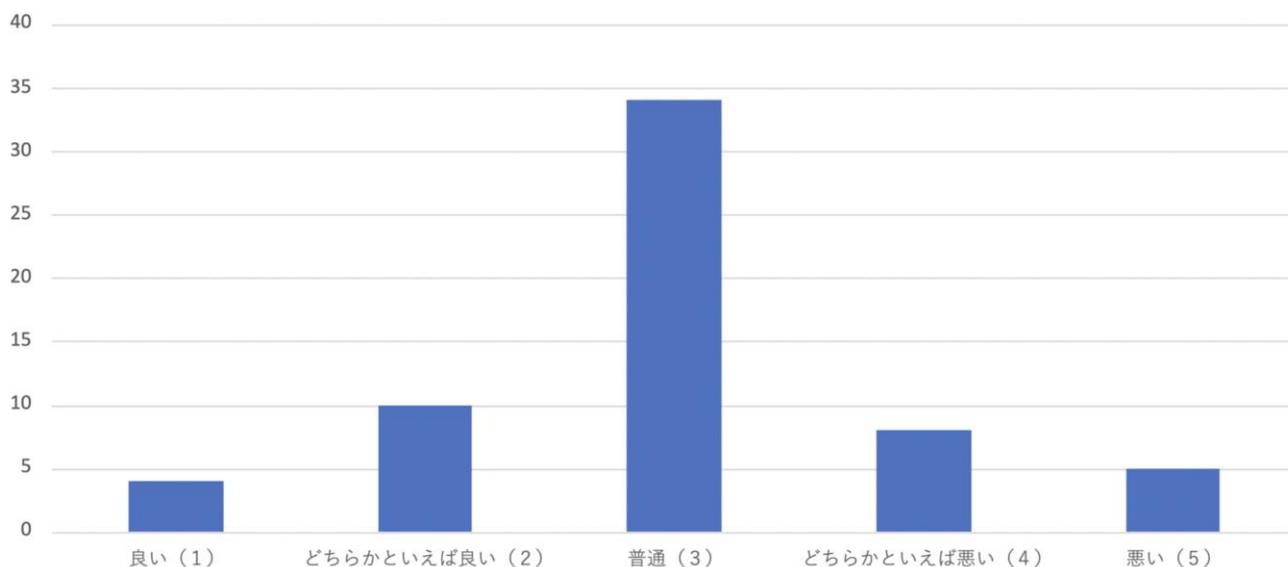


図20 患者の反応

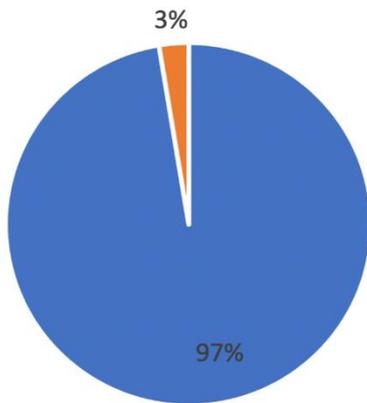
⑫今後どのようなシステムがあると良いですか

以下のような意見が記載された。箇条書きで示す。

- ・ 色々な情報を沢山載せるよりしぼってわかりやすいものが良いと思う
- ・ 大学病院の案内パンフレットがあると良い
- ・ 医科歯科連携の重要さをもう少しわかりやすくアピールするパンフレットが欲しい
- ・ 紹介の際に予約の案内をしなくてもいいような詳細が記載されたパンフレットが欲しい
- ・ 4コマ漫画のような親しみやすいパンフレットが良いと思う

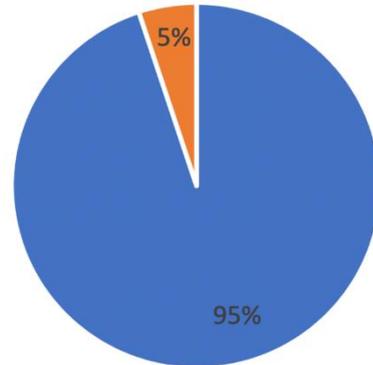
VI、第1回・第2回アンケート比較

②-1 大学病院（歯科）への紹介をされていますか



■ はい ■ いいえ

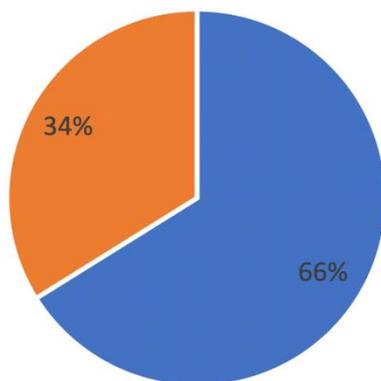
第1回



■ はい ■ いいえ

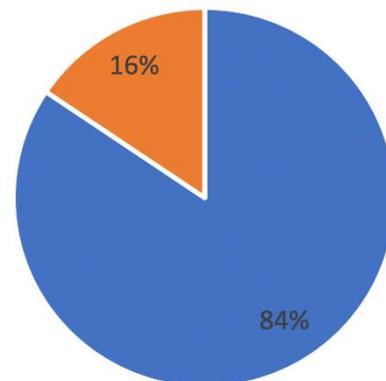
第2回

⑥-1 現在、医科歯科連携をされていますか



■ はい ■ いいえ

第1回



■ はい ■ いいえ

第2回

第2回アンケートでは医科歯科連携が大幅に向上しており、約27%向上した。

IV、考察

第1回のアンケートにより全体を通して様々な意見・要望を得ることができ、現在の医療連携のシステムの改善点が明らかになった。特に歯科病診連携では連携先の病院の予約が取り辛いという意見が多く、紹介先の病院の各々の予約システムの改善が必要といえるだろう。また歯科医院と歯科大学病院がより緊密な連携を行う必要があり、そのためには普段からの双方のコミュニケーションの場や普段書面のみでのやり取りが多い連携であるが、もっと手軽に情報交換ができるシステムを構築する必要があると考えた。

医科歯科連携については約40%の歯科医院で医科との連携を行っていないことから特定の疾患を持つ患者に対してしっかりと医科への対診をとっている医院が少ないように推察された。これに対しては①医科歯科連携を推進することでより患者の全身管理が向上すること②口腔内のことだけでなく身体全体の健康は口の健康と深い関係性があることの2点を開業歯科医と患者の両者に認識させることが重要だと考え、両者それぞれに対して連携を啓発することができる媒体を配布した。

媒体配布後の第2回アンケートでは、歯科病診連携に関しては1回目とあまり差は認められなかったがその理由としてこの事業以前より連携が積極的に行われていたのではないかと考察した。一方、医科歯科連携は1回目のアンケート時に連携を行っていると答えた医院は66%であったが、2回目の回答では84%であった。この結果から医科歯科連携に関して今回の医療連携啓発事業の効果が得られたのではないかと考察した。

しかし、歯科医院から媒体への意見には「高齢者には紙媒体である必要がある為良い」「媒体を読んだ患者から歯科医師へ質問があり興味を感じた」などの良い意見がある一方で、「インパクトがない」「反応を感じる事ができなかった」などの意見もみられた。これは今回作成した媒体の改善点であり、今後も媒体を作成・配布をすることで医療連携の推進を図る場合は今回頂いた意見を元に改善を加えた媒体の作成が必須であると考ええる。

V、謝辞

本事業におきまして、千代田学の助成をいただきましたこと千代田区の関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。並びにアンケートにご協力いただいた千代田区内の歯科医院関係者の皆様にも深く御礼を申し上げます。今後も本事業から得た情報や貴重なご意見をさらに千代田区内の医療連携の推進に役立てていく所存です。